



mIRaI 通信

ニャンニャンニャンの日



～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

幸か不幸かは自分が決める！



今日は、県立特別入学者選抜の「内定」発表です。

高校入試の中では最も厳しい入試と言えるでしょう。その入試に立ち向かい、今日一つの結果が出ます。内定となった人、おめでとうございます。ならなかった人、残念でした。しかし…、「内定」をもらえれば「幸」？、残念な結果なら「不幸」？どうしてもそう捉えてしまいます。もちろん間違いではありません。ただし、とりあえずは…、です。

起こる出来事そのものには「幸」「不幸」の区別はありません。
「幸」か「不幸」かは、人の心、行動が決めるのです。



今日、たとえ内定をもらったとしても、浮かれてその後の生活が崩れ、学習習慣も生活習慣も乱れ、高校入学後の生活に悪影響を与えるようでは、せっかくの内定を貰ったことも、結果としては「不幸」になります。

残念ながら内定を貰えなくても、その悔しさから一念発起し、今の実力よりも高いものを身につけて一般入試で合格、それを高校入学後に発揮できれば、結果として「幸」であると言えます。

友人の高校の教師も、「推薦で決まった生徒は、その後サボるのか、入学後の新入生テストでは、一般合格者の方が成績が良い傾向がある。」と言っていたことがあります。本末転倒ですね。

今日の結果、どちらになろうが、その結果に負けない、流されない心の強さをもって臨んでください。どちらの結果が出ようが、大切なのはその後です。ぜひ「幸」にしてください。

念のため書いておきますが（重々わかってきているとは思いますが）、あくまで今回は「内定」であり、「合格」ではありません。今後の生活しだいでは、「xxx」となる可能性もありますので、油断なきよう（怖）。

私立専願の合格者、県立の内定者のみんなで、まだ受験がある仲間たちを支え盛り上げ、近づいた卒業に向けての準備を率先して行ってくれることを期待しています。

どうかそのような「カッコいい」姿を下級生たちに見せてください。



中学校は「高校に入る」ことを目標にはしていません。そこは決してゴールではないですね。これから先の人生を「自分らしくたくましく生きていく」ために様々な学習をしています。

その目標からいけば、今回の結果をどうとらえるか、それをその後の生活にどう生かすか…も中学校の勉強の一つです。



校歌への熱い想いを語る



母校の校歌”

「朝日たださすこの丘の 赤きいらかの学舎に高き理想仰ぎつつ……」と歌うこの校歌をまた歌うことができました。まさか母校に勤務できることがあるなんて。今から何年も前に前に覚えた校歌です。この歌の作詞・作曲者は伊里地区の大饗健太郎さんで、つい最近までご健在でしたが、今はもうお亡くなりになりました。

私が校歌に出会ったのは中学生になった時が初めてでした。伊里小学校は私が在籍している頃はまだ校歌がなく、修学旅行、海の学習に行った時「みんなで校歌を歌ってほしい。」とバスの中でガイドさんに言われ、「校歌がありません。」と言ったことがあります。私達の頃は「よいこの歌」が校歌に変わるものでした。この歌は、校歌を歌えないのはかわいそうと思われた当時の音楽担当の先生が作っていただきました。「よい子の歌」が伊里小学校の歌として歌われていました。そして数年後、小学校に今の校歌ができました。しかし私は中学生になっていました。

私が校歌に出会ったのは中学校の入学式でした。そして校歌を覚えたのは入学して初めての宿泊研修に行く前でした。なかなか覚えることができず、どうにかこうにかうろ覚えのまま参加し、歌った記憶がよみがえってきました。その後、期末テストで悪戦苦闘の戦いがありました。五線譜が書かれた解答用紙に歌詞を1番から3番まで書いたように覚えています。こんなこともあり、しっかりと覚えたような気がします。

私にとってこの校歌は中学校時代の仲間と一緒に歌った大切な思い出の歌です。こんなエピソードもありました。「卒業式に涙をためても、伊里中学校の生徒で歌う校歌は今日が最後だ。一生懸命に歌うで」と友の声。力いっぱいに歌いました。

歌の内容は、今の校舎とはちょっと違って「赤きいらかの学舎に……」は、現小学校の屋根を想像してください。今から数年前に伊里中学校の校舎を建て替えた時、赤い屋根にしたようです。「ふもとをめぐる伊里川……」は今も伊里川は流れています。前々の校舎（校歌ができた頃）が友延の山の中腹にあったため、ふもとを流れていました。

こんな穏やかな自然豊かな伊里を歌った校歌を自分たち伊里っ子の誇りとしてみんなで歌い、自分の心にいつまでも刻んでおきましょう。卒業してしまえば次に歌うときは同窓会です。決して全員で歌えるわけではありません。今だからみんなで、誇りに思っ大きな声で歌っていきましょう。

松井 和美

今日も西に東に南に北に、とバイタリティあふれる活動ぶりの支援員の松井先生です。その人脈と経歴を生かし「完全地域密着型」の指導で、伊里中学校を支えてくださっています。

松井先生も伊里中学校出身なので、みんなの先輩として、その校歌への想いを伝えたい、との気持ちからの今回の熱い文章ですね。「校歌への想い」は私も同じ。「同じ時に同じ場所で集い、生涯に渡り同じ歌を歌える」喜びを味わってほしいです。



ニャンニャンニャン (もひとつニャン) の日



2月22日は、言わずと知れた「ニャンニャンニャン」の日ですが、我が家には4匹のニャンズがいるので、「ニャンニャンニャンニャン」の日です(ややこしい…)

ついこの前まで、カワイイカワイイ子猫ちゃんだったチョコちゃんも、はや立派なレディとなり、縦横無尽に駆け回っております。もうレディなのかレディースなのかわかりません？

ピンクにブルーにミカンにチョコ。お陰さまで元気に「222」を迎えました。